

牛首川を合し、八野にて右岸から野寺川を容れ、更に河口に近く寶達山から發した免田川を右岸に受け、砂丘を蛇行して日本海に注ぐ。流程二三軒。河口に川尻村があるに依つて、川尻川と呼ぶこともある。三宮古記近年水引神人沙汰進分事條に、『英山村紺一端、賀茂驛ヨリ北大見河』とある大見河は是であらう。

オホミカハシリ 大海川尻 羽咋郡押水大海庄に屬する部落。

オホミゴウ 大海郷 羽咋郡の古郷名。於保美と訓ずる。和名抄の諸本には大海に作る。後世押水庄に變じた。

オホミサキ 大御前 ↓シラヤマゴゼン 白山御前。

オホミシヨウ 大海庄 羽咋郡に屬する。和名抄所載大海郷の地である。承久三年注進の能登岡田數目録に、『大泉莊、二百町、保延二年立券』と見えるが、大泉は大泉の誤かと思はれる。大泉庄は更にオホシミツと訓まれることとなつて、後世の押水大海庄・押水中庄・押水北庄を生じたが、その中押水大海庄の如きは同根の語を重ねたのである。

オホミゾヤマ 大瀧山 江沼郡四十九院領東俣の谷から市谷に越す峠の東に在つて、四十九院・荒谷・市谷に跨る。高さ六八九米。一名ひのせぎともいふ。

オホミチダニ 大道谷 能美郡大額山西方の溪谷で、その水牛首川に注ぐ。

オホミネ 大峰 能美郡中峠と三ッ谷の間にある山。高さ四五三米。

オホミネジンジャ 大峰神社 鳳至郡院内

て後の山入町登れば、石動山五社權現の社あり。高山權現といふ。毎歲三月廿四日は高山祭として、一郷の祭也。毎歲十月朔日より十日まで八講祭として、近在十ヶ村に三十名の百姓有て、祭の當屋を勤むる也。昔七堂伽藍にて、中比まで六坊ありし跡共儘あり。二王門・塔・谷内といひて地名あり。其時の寺領地なる故院内村の名あり。』と記する。明治の初五柱社と改稱し、八年更に今の名に改めた。

オホミヤジンジャ 大宮神社 鳳至郡藤波に鎮座したが、明治四十三年神目神社に合祀せられた。能登名跡志に、『藤波といふに大宮權現あり。祭禮毎年三月二日三日也。御幸あり。此日を藤波の祭といふ。百姓分一椀、表百姓一椀、頭振一椀を神前に備ふ。神主祈念濟むと、共三つの椀を我先人先と争ひ、村中を振歩行く也。其後は酒一椀もなくなりて、皆々外なる酒を買來て盛に酌み遊ぶこと也。是を藤波の椀祭といふ也。』とある。

オホミヤミツトモ 大宮光朝 通稱丹摩。初禪履信。初め前田重教の御近習坊主であつたが、天明六年新番に列し、文化五年同小頭に進んで新知百五十石を領し、十三年五十石を加へ組外に班し、文政九年七月致仕して及翁といひ、料十人扶持を受け、天保六年七月八十三歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

オホムライエモン 大村伊右衛門 初め御歩より出で、同小頭に上り、寶永中因幡御前附御用人として五十石を加へ、計百石を領して組外に列した。子孫相繼いで藩に仕へる。

オホムラウモンスケ 大村右文助 初めて

世襲する。

オホムラコレヨシ 大村伊欣 通稱駒之助。友右衛門。寛政五年十二月父伊左衛門の遺知三の一を受け、七年九月本知八十石に復し、改作奉行に任じ、文政二年九月五十石、九年六月二十石を加へて頭並となつた。

オホムラシチベエ 大村七兵衛 初め惣藏。貞右衛門。享和二年九月父金左衛門孟昭の遺知百石を襲ぎ、江戸御廣式番御書物奉行・前田齊泰御抱守に歴任し、文化十二年二月五十石を加へ、文政元年歿した。

オホムラナガタカ 大村長高 一に長尙に作る。通稱平藏七郎右衛門。父勘解由の遺知二百石を襲ぎ、元祿十二年櫻田御前御用人加となつて五十石を加へ、正徳元年同物頭並として更に百石を加へ、享保十二年御免、元文二年八十歳を以て歿した。

オホムラナガヨシ 大村長好 通稱傳藏。七郎右衛門長高の子。初め前田吉徳の御部屋附御小將として新知百五十石を受け、享保四年御附大小將番頭として百石を加へ、九年御先弓頭に轉じて又百石を加へ、十八年四月廿七日四十五歳を以て歿した。

オホムラマサツグ 大村昌紹 通稱武次郎。明和九年養父傳次郎の遺知百二十石を襲ぎ、表御納戸奉行・江戸御廣式番・同御用人に歴任し、文化三年三十石を加へ、法樂院附物頭並となり、文政三年又百石を増し、御先頭・新番頭を経て、十一年十一月致仕して重山と號し、二十人扶持を受け、天保五年六月歿した。

オホムラムネトモ 大村致知 通稱香次郎。號は自脩。七郎左衛門の養子。文化九年遺知

御次番・御抱守・御近習詰・表小將横目・持弓頭と次第に昇進し、弘化元年百石を加へて組頭並に列し、次いで小將頭・馬廻頭・定番頭並・定番頭に轉じ、安政五年祿二百石を加へ、慶應元年致仕して新たに三百石を受け、三年五月四日七十五歳を以て歿した。

オホモリサプロベエ 大森三郎兵衛 京都の呉服商。前田利家以來その用命を奉じた。三郎兵衛は老後宗巴と號し、寛永五年歿。その子宗圓の時には、寛文八年三十人扶持を興へられて、同十年に歿した。三代三郎兵衛は宗圓の甥五郎兵衛の子を養つたもの。爾後後裔世々その業を繼いだ。

オホモリシヤ 大森社 鹿島郡矢田に二社ある。上大森社は葎七尾城山の龜尾に、下大森社は恵比須ヶ森に鎮座し、由來書には氣多明神の御子神とする。

オホヤ 大屋 珠洲郡三崎郷に屬する部落。この村の散村に方上がある。明治中に至り隣邑小谷を併合した。↓カタガミ 方上。

オホヤオクエモン 大屋奥右衛門 越中守山に於いて初めて前田利長に仕へ、二百石を受けた。子孫相繼いで藩に仕へる。

オホヤガイコウ 大屋愷故 舊姓石澤。通稱武一郎。嵯山又は岸舟と號し、天保十年八月金澤に生まれた。安政元年京都に遊び、五年歸國して安達寛栗及び屈田正明に西洋學を受け、慶應元年壯翁館翻譯方となり、後諸職に歴任し、置縣以後學事に關係して策するところ甚だ多く、地理・歴史の著作もまた少くなかつた。明治三十四年六月六十三歳を以て歿。

前田利家に仕へて四百石を領した。子孫藩に